

[編集後記]

◇ 47巻1号をおとどけします。あらかじめお知らせしてあったように、本号からが昨年末に1部入れ換えを行なったいうなれば第2次編集委員会の正式の受持ちになります。委員の氏名は表紙でご覧いただきますが、46巻6号に掲載した刊行計画をはじめ、あたらしい企画などについては、本年はじめからの、この委員会で練られたものです。

◇ 公募、推せんにもとづく総説、講座、展望、余話などは、いままでと同様ですが、診療のための検査の担当が、降矢先生から小林(章)先生にかわり、また1号につき麻生、村山両先生がひとつずつ受持っていたあたらしい葉が、当分の間交替で1号1葉ということになりました。

◇ さらに“らいぶらりい”“さえら”“くるつふあっせん”などあたらしい頁ができました。“らいぶらりい”は主として新刊書、専門家による推せん書などの表題、著者、内容の簡単な紹介を行なうもの。“さえら”は主として“人”または特殊な研究単位などの紹介を行なうもの。“くるつふあっせん”はあたらしい知識、進んだ実験や手術の手技、その他トピックスに類するものの紹介を行なうもので、一種の情報提供の頁と申せましょう。今号にはらいぶらりい2(桑田・萩原)、さえら(石川)、くるつふあっせん1(萩原)が載りました。これらは不定期に、原稿の寄せられたとき、紙面の都合で掲載されますが、常時原稿をストックしておく必要がありますの

で、今回のものをご一覧の上、いつでも原稿をお寄せ下さい。800~1,000字が最も適当な量と考えます。

◇ さて47巻のふたあけとして、1号の巻頭は赤松名誉教授にお願いしました。学問の領域にうぬ惚れや思いあがりや厳禁であり、決して覇者の横道を悲願してはならないと、本学会の使命と業績にたいするいましめの言葉を述べておられます。宮内、柳沢両先生の総説は、両先生の最終講義をおまとめいただいたもので、宮内先生の鑑定例については、永いご経験のうちの一端をお示しいただいたもので、かなり有名な事件の解明の手がかりが、本学でなされていたことを知りました。柳沢先生は医学概論の本学における生い立ちと、歩み、それにかけた先生の情熱について述べておられます。

◇ 辻先生の脊髄腫瘍とその問題点は、場所からいって圧迫性の麻痺をおこしやすい、外科的治療にもまだまだ難点の残されている脊髄腫瘍についての、現段階までの進歩と残された問題を、見事にまとめた講座です。

◇ 原著は3篇、シンチカメラによる肺血流量、肺癌の病理、白血球の分離法のみつつです。学会としては整外、麻酔、泌尿の各例会記事があり、昨年度の医学部公開講座の抄録も載りました。

◇ 以上が47巻の出帆の状況です。今後良い風を得て盛んな帆走ができれば幸いです。

(萩原弥四郎)

洋書・医学書・其他書籍

医学書院
特約店

水谷書店

千葉市宮崎2-7-25

電話 (61) 5669

振替東京11295